Susono Overseas Friendship Association

SOFA

2020年10月
Vol. 85

発行：裾野市海外友好協会　事務局：〒410-1118　静岡県裾野市佐野921-3　TEL／FAX055 (993) 9695

新型コロナウィルスによる各種イベント中止

会員の皆様方におかれましては益々ご清祥の事と存じます。

日頃より海外友好協会の事業運営にご協力を頂き、ありがとうございます。

現在、世界中に新型コロナウイルスが蔓延し、社会生活や経済活動にも大きな制約を与えています。

当協会におきましても、定期総会を始め国際交流フェアーや小中学生の短期派遣事業など、多くの事業を中止せざるを得ない状況です。

特に、今年１１月にフランクストン市で開催が予定されていたジャパンフェスティバルが延期となったことは残念です。

ＦＳＦＡ副会長のサイモン・ハスト氏によると、フランクストン市内ではかなり厳しい行動制限が設けられているようです。

そこで、現在ビクトリア州ではどのような規制が設けられているのか、調べてみました。

例えば、夜８時から翌朝５時までは外出禁止、昼間の外出は自宅から５キロ以内とする、買い物は１日１回で食料品などの生活必需品に限られるとのことでした。

さらに、飲食店は持ち帰りとデリバリーのみで、学校はリモート授業、マスクをしていないと罰金200ドル、スポーツ等の運動は１日１時間以内、そして驚くことに一時は結婚式も禁止され、現在も人数制限があるようです。

あまりの厳しさに驚いてしまいました。それに比べれば日本や裾野はまだまだ規制が緩く、自由であると感じました。

コロナが早く鎮静化し、市民生活やＳＯＦＡの活動が通常にできる平穏な日常が戻ってくれることを願ってやみません。

（SOFA二宮祥司会長）

・コロナウイルスの蔓延により、英会話・韓国語・日本語教室の講座が休講になり、受講生の皆さんには大変ご迷惑をおかけいたしました。

・毎年恒例となっている、小中学生のフランクストンへの短期留学（８月）についても、日本、オーストラリア双方におけるコロナウイルスの流行で中止となりました。

Frankston Susono Friendship Association

役員の紹介

裾野市とオーストラリアのフランクストン市が姉妹提携をしてから40年近くが経過します。
本年度はFSFA内において理事数名の交代がありました。
2021年10月には姉妹提携40周年記念式典が開催される予定となっていますが、その際には今回ご紹介する皆様が裾野市を訪問することでしょう。

会　長　Julie D'Arcy

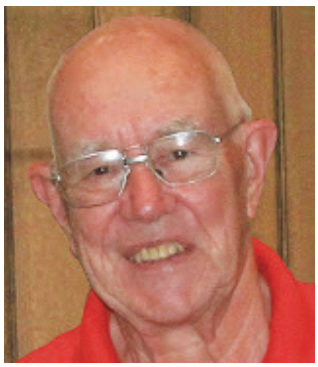
ジュリーは1983年に両市で始まった最初の交換留学生の一人でした。彼女はホストファミリーと連絡を取り続け、彼女の家族や4人の子供を何度も日本に連れて行きました。 彼女はFSFAと裾野市との関係に情熱を傾けており、委員会と協力して2つの都市間の友情の絆を強化し、日本に対する知識と愛を共有することを楽しみにしています！

副会長　Simon Hast

サイモンは1995年にフランクストン高校の教師として生徒と共に日本を訪れ、この驚くべき国の景色と音、そしてその人々の寛大さとおもてなしに感動しました。FSFAにおいて、彼は日本語と文化との接触を維持し、促進する事に努力しています。サイモンは、直近では2018年にフランクストン訪問団として来日し、今迄5回訪日しています。今後さらに多くのことを楽しみにしています！

会計･書記　Bev Hannan

Bevは、私たちの実行委員会の最長のメンバーであり、現在、会計係および書記/公務員の役割を果たしています。彼女は旅行が大好きで、特に日本と姉妹都市裾野への旅行を楽しんでいます。Bevのこれまでの役割には、長期交換留学でフランクストンに来た、多くの学生のカウンセラーとしての役割も含まれています。



Vic Webster

ヴィックは日本、特に姉妹都市裾野を彼の妻ベブ・ハンナンを通じて知りました。彼はFSFA委員会の10年以上の積極的なメンバーであり、特に日本のフェスティバル、姉妹都市の訪問、日本文化、さまざまな日本食を楽しんでいます。VicとBevは、裾野からの訪問者だけでなく、日本の他の地域からのゲストもホストしました。ヴィックはまた、海外旅行やクルージングを楽しんでいます。秋の紅葉を楽しみ、友情を深めるために、今年後半の日本への旅行を楽しみにしています。

David Cross

デビッドは、FSFAの新しいメンバーとして、裾野で開催されたオーストラリアフェアのため2018年に日本を訪れました。その経験は印象に残り、彼は今後の日本への旅行と日本のカウンターパートとの関係をさらに発展させることを楽しみにしています。彼は、フランクストン環境フレンズネットワークやフランクストンロータリークラブのメンバーであるフランクストン高校評議会の議長を務めるなど、地域社会との関わりにおいて長い歴史を持ち、2016年にはフランクストン市民賞を受賞しました。

Helen Wilson

ヘレンはフランクストン高校のシニアキャンパスプリンシパルです。　彼女はフランクストン高校との関わりの30年以上の間に、日本から何百人もの交換留学生を歓迎しました。ヘレンは2020フランクストン高校の日本旅行をリードし、裾野を訪れ、日本の文化についてもっと学ぶことを楽しみにしています。

Adrian Thomas

エイドリアンは1999年に日本人女性と結婚し、日本に9年間住んでいました。この間、日本の人々は彼を驚かせ続けました。彼らの生活は彼が知っていたものとは大きく異なっていました。彼の家族はメルボルンに定住し、今では娘と一緒に日本の文化とのつながりを維持することが重要であると信じています。したがって、彼女は日本の土曜日の学校に通い、家族は毎年日本に旅行し、彼らはしばしば日本人のゲストを迎えたり、妻の家族と一緒に過ごしたりしています。

Anita Cross

アニタは、2018年のフランクストン日本代表団のメンバーでした。彼女と夫のデイビッドは文化について学び、とても素晴らしい時間を過ごし、彼らがまだ連絡を取り合っている日本人のホストとホームステイを本当に楽しみました。彼女はまた、日本人がとても親切で、裾野でのオーストラリア見本市に参加し、そのような素晴らしい料理を味わったことで本当に喜びました。以前実行委員会の会議に2度出席したので、彼女は委員会に参加することで協会に貢献できるかもしれないと判断しました。

Therese Sakamoto

テレーズさんは1986年に裾野市へ交換留学をした日本語教師です。30年以上にわたり裾野市との強いつながりを持ち、裾野市を「第二の故郷」と考えています！

Sam Warrington

サムは2005年に裾野との交換留学生として来日しました。彼は、フランクストンと裾野の市民がお互いの異なる文化、習慣、言語とつながるために本物の体験を提供することに情熱を傾けています。サムは日本語教師であり、定期的に日本に戻り、彼の「第二の故郷」裾野との関係を強化しています。

日本語を勉強するスリランカの青年

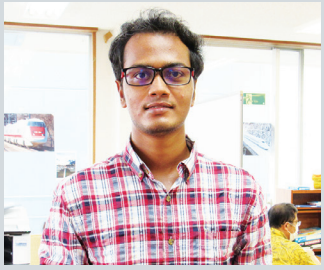
【裾野市海外友好協会日本語教室】

スリランカのディラーンさん(26歳)とカルパさん(27歳)は日本に来て約１年半、自国で半年間日本語を勉強し、その後は日本の会社や当友好協会で学び、大変上手に日本語を話し理解もできます。

二人ともコロナのため仕事を無くしましたが、新しい仕事も見つかりつつあり、頑張っています。裾野が大変好きで住み続けたいとのことです。

日本では、山梨県の富士急ハイランドでドロンパに乗ってスリリングな動きに驚いたが、また乗りたいとのことです。旅行も京都など行ってみたいと言ってますが、共通な話題はなんと、日本でジムに通うのが夢だそうです。ディラーンさんは裾野での仕事が見つかり引き続き裾野に住み、カルパさんは横浜への就職が決まりました。

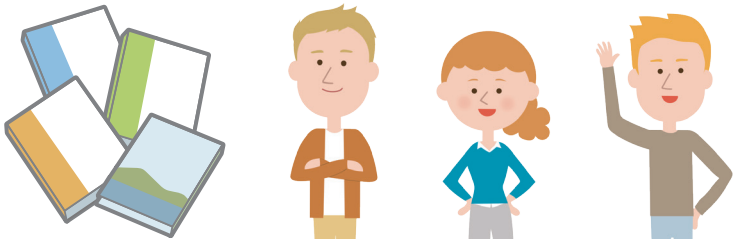
【日本で設計の仕事を目指すディラーンさん】



【新しい仕事に臨むカルパさん】

海外留学への案内冊子

最新の海外留学案内書があります。国別ではアメリカ、カナダ、イギリス、ニュージーランド、オーストラリア、台湾です。必要な方は当協会までお越しください。
（事務所は月・水・金の13時～16時まで開いています）



編集後記

2020年は当初からコロナ禍で、行事など計画しては中止となり、まったく出口の見えない日々の連続でした。今後はこのような状況がいつ改善されるのかじっと待つことになりますが、2021年2月13日には英語スピーチコンテストが開催予定です。中学生の元気な発表を期待します。